

# 日産工機株式会社

～社員ひとりひとりを大切にする社風のなかで、  
休暇取得促進や残業時間削減にむけて取り組む～

総務部 佐々木 豊 さん



日産グループの中で、エンジンや車軸の組立メーカーとして、また、それらの部品の機械加工メーカーとして、独自の技術を持って活躍している日産工機(株)。近年は休暇の取得促進や残業時間の削減などにも熱心に取り組んでおり、またそのような社風の中で男性の育児休業の申請に対しても適切に対応した実績がある。

仕事以外の活動も充実してこそ、柔軟で新しい発想が生まれ、結果として労働生産性の向上につながると考えています。



寒川町の野球大会「日産工機杯」で球審を務めている様子(総務部 主管 伊藤 浩さん)

全部署に発信するなど、休暇取得の促進に向けて活動しています。

その他、有給休暇を半日単位で取得できるので、午前中に子どもの学校の授業参観に行き、午後から出勤するというようなこともできるようになっています。

かつては有給休暇の申請がしにくいという声もありましたが、会社として有給休暇の取得を奨励することで家庭生活などの個人のプライベートな生活をより一層充実させる手助けができればと考えております。

今後は年度初めに計画する休暇日数を少しずつ増やしていきたいと考えています。

## 日産工機にとっての ワーク・ライフ・バランス

—ワーク・ライフ・バランスについてどのようなお考えを持っていますか。

従来から、夏まつりやシーサイドフェスティバルなど、家族や地域の方も参加できる各種イベントを労働組合と連携して毎年開催しています。また、野球やサッカーなど文化体育活動も盛んです。

個々人においては、多彩な趣味を持っている社員や、ボランティアをして社会貢献をしている社員もおり、仕事だけではなく、仕事以外の活動やプライベートも尊重する雰囲気があります。

例えば、毎年春や夏になると、ボランティアで高校野球の審判をしている社員もおります。

## 休暇取得促進への きめこまやかな取組

—有給休暇の取得を促すためにどのようなことをされていますか。

個人によって、毎月1日ずつ休暇を取りたいという人もいれば、夏や冬に多めに休暇を取りたいという人もいます。こういった個人のニーズを汲み取りながら、全体として有給休暇の取得日数が増えるように取り組んでいます。

具体的にはまず、社員全員が年度末に次年度の休暇取得について計画します。職場と総務部で集約し、誰がいつ休暇取得を計画しているかを把握しています。また、毎月の労使の安全衛生委員会で、休暇の取得状況を確認しています。さらに総務部からは、部署ごとの前月の休暇取得実績、目標達成の度合いを

## 残業時間の削減への 取組

—残業時間の削減についてはどのような取組みをされていますか。

当社の製品は、お客さまが必要とされるときに必要な数を確実にお届けすることが重要です。

そのため、急な増産の対応などで、社員には止むを得ず突発の残業や休日出勤をして対応していただくこともあります。

結果として事前の勤務計画通りにいかず、残業・休日出勤時間が多くなっている部署・従業員に対しては、アラームを出

し、場合によっては仕事の配分・配置を調整するなどして、特定の社員に過大な負荷がかかることを回避するようにしています。

高負荷勤務は社員の健康を害するおそれがあり、放置するわけにはいきません。また、残業時間の削減は業務の効率化にもつながりますし、休暇の取得促進とともに社員の個人的な生活の充実にもつながると考えています。

## 育児休業を取りやすくする 職場をめざして

——育児休業の取得を促すためにどのような取組みをされていますか。

育児休業を取得する方には、復職にあたっては休業取得前の経験を生かし、なるべく休業前と同じ職場に復帰して頂きたいと考えています。

当社では、育児休業を申請する人が、自分が休むことで職場の他の人の負担が増えることを心配しなくて済むように、育児休業の申請ができた場合、パートタイマー、または派遣社員といった有期契約の従業員を採用しています。育児休業者が復帰するまでの契約で採用しますが、ようやく仕事に慣れた頃に契約を終了するのは惜しいと考えています。そのため、代替要員の方の受け皿が確保できれば、他部署に異動していただき、引き続き契約させていただくこともあります。

また男性社員の育児休業の申請は現在までに1件（2006年1月から3か月間）ありました。その男性社員も職場復帰後、また力を十分に発揮してもらっています。

## 育児休業経験者の声



橘 桂子さん(左)と福田真弓さん(右)

	橘さん	福田さん
所 属	製造部 機械課	製造部 組立課
育 児 休 業 の期間	約10か月間 (2004年6 月～)	約10か月間 (2003年5 月～)

——育児休業中や復帰後、大変だったことはどのようなことですか。

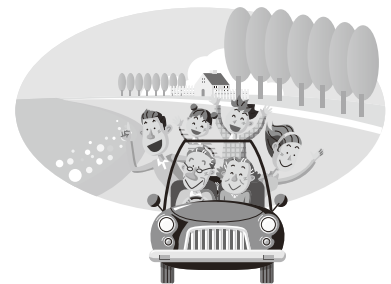
橘 復帰後、子供の急な発熱や保育園の行事等で休みがちですが、今の所属の方々は気持ちよく対応してくださいます。はじめのうちはペースがつかめず、時間に追われている毎日でしたが、復帰経験のある同僚が何人かいるため、いろいろ意見を交わし、真似できる事をやってみたりと少しでも自分のペースをつかむ事で、時間に追われている気持ちもだいぶ少なくなりました。

福田 私の子どもも保育園に入所後間もない時は、毎月2回は熱を出し登園できず会社を休んだり親にみてもらったりとバタバタした生活が続き、育児休業中よりも復帰後の方が悩みは尽きない状態でした。

——育児を経験したことで、業務や生活に何かプラスの効果はありましたか？

橘 出産前より出産後の方が穏やかな気持ちで仕事をしていると思います。生活環境も変わり子供と一緒に成長しているからなのかもしれません。

福田 私は、一日の勤務時間内で自分の仕事を配分して効率よくできるように、常に意識するようになりました。ただ、私の仕事は生産ラインと直結した仕事が多いので、自分のペースだけでは時間内に終わらせる事ができない事も多々ありますが、工長（監督者）の理解があり助かっています。家族の協力・両親の協力・会社の理解がないと仕事と子育ての両立はできないと実感しています。



## 会社概要



名 称	日産工機株式会社
所 在 地	神奈川県高座郡寒川町 岡田六丁目6番1号
事業内容	自動車・フォークリフト および、産業機械用など 各種エンジンの製造など
設 立	1964年
資 本 金	20億2千万円
従業員数	約1,000名 (うち女性 60名)